



発行

NPO法人 大阪難病連加盟
大阪乾癬患者友の会(梯の会)

特集

第50回学習懇談会



・・・ Index ・・・

・会長挨拶	P1	・小林照明先生講演録	P5
・事業報告・事業計画	P2	・第50回学習会アンケート	P16
・決算報告・予算案	P3	・乾癬あれこれ	P18
・第50回学習会	P4	・相談医からの一言	P19

正しい情報発信と不安の解消に向けて

大阪乾癬患者友の会(梯の会)

会長 留田

会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。2025年度の当初にあたりご挨拶をさせていただきます。2024

年は新型コロナウイルスに関してはまだまだ感染者が多いもののインフルエンザを含む他の感染症と同等の一般的な病気になってきたようですが、感染症が全般に多くなってきた印象で、病をもち免疫に関わる治療をされている方が多い乾癬患者としてはなお気の抜けない状況かと思えます。基本的な感染対策をしながら健康に留意して生活したいものです。

大阪乾癬患者友の会(梯の会)は1998年12月に発足し、2023年12月に25周年を迎えました。昨年度には25周年記念行事として大阪大学医学部における学習講演会や「乾癬ワンポイントアドバイスPart2」の発刊を行うことが出来ました。とうわけて25周年を無事に終えることが出来ました。また医師の会議である乾癬学会が大阪で開催され学習会や懇

親会も開催することができました。

さて当会を取り巻く環境は記念行事のトークセッションでも話題として取り上げさせていただきましたが、幹事の高齢化に加え人数の減少等、運営環境が厳しくなっています。具体的には発足当時は十数名の平均年齢50歳くらいの幹事で運営していたものが現在は平均年齢70歳くらいの数名の感じで運営するようになってきています。今後の運営は徐々に困難にくる見込みです。このため今後の患者会の存続をかけて是非多くの新しい方々に会の運営にご参加いただきたいです。

25年間に乾癬を取り巻く環境は大きく変わってきました。治療へのなすべの少なかった当時「乾癬が不治の病である」と言う認識は過去のものとなり、適切な治療を受ければ「普通の生活が送れる」ようになってきました。これには全国の患者会一丸となつての啓蒙活動や生物学的製剤の早期承認活動によるところも多いと思っております。

最近では多種の生物学的製剤(注射薬)に加え内服薬など治療に有効な薬剤が多数開発されてきました。しかし今なおこの恩恵を受けることができない方も多くいらつしやいます。

最近ではネット環境の変化やSNSなどによる情報のため表面的な情報は多く出回っています。しかし不正確なネットの情報に惑わされている乾癬患者さんも多く存在しています。このような状況を踏まえ、当会では引き続き疾病に関する患者と医療者に向けての正しい情報発信と、不安解消を主目的とした患者同士の交流活動を続けていきます。乾癬でお困りの方に会ったら患者会を紹介してください。皆様一緒に健康な生活を維持していきましょう。

2025年度も学習会等は対面で開催していきます。春と秋の2回の開催予定です。対面ではなくWeb開催がご便利な方もいらつしやるとは思いますが、皆様のご要望、会の運営や、運営経費等を総合的に判断して対面のみ開催を基本といたします。また前年同様行事等の記録をつぶさに会報に載せて情報を提供させていただきます。不自由な今日この頃ですが体調や感染に注意され乾癬が悪化しないよう健康にお過ごしください。